# 高齢者と子どもの居場所づくりとふれあい

## 愛知県豊田市　青木台まちづくり協議会

### 発足のきっかけ

昭和50年代、青木台自治区（1300世帯）は新興団地で、若い世代の世帯がほとんどだった。子どもたちを通して若い親世代のコミュニケーションは取れていた。成長した子どもたちは巣立っていき、数十年を経た現在、高齢者のみの世帯、あるいは高齢者の単身世帯がごく普通になってきた。その中にぽつぽつと若い世代の人がいるという状況になった。そのため地域・世代間のコミュニケーションが取りにくくなり、さらに、世代間だけでなく、外出の機会の少ない高齢者間のコミュニケーションすら疎になるのではとの、危惧がささやかれるようになった。平成26年、こうした状況をなんとかしていこうという住民有志で「まちづくり協議会」を設立。現在は、会長以下22名の主に70歳以上のメンバーで運営している。

### 活動内容

《わいわいさろん》

平成26年9月、どの世代の人も自由に参加できる場所として、自治区のふれあい会館を会場として、「わいわいさろん」をオープンした。週2日（火・土）10時～15時まで。

コンセプトは「青木台の大家族の一部屋」。この時には特にイベントはせず、好きな時に来て、おしゃべりをしたり、将棋、囲碁、トランプ、折り紙や麻雀をしたりして自由に時間を過ごす。

①高齢者の居場所として

多くの高齢者の方は、愛着のある住み慣れたこの地で、我が家でいつまでも暮らし続けたいと望んでいる。一口に高齢者といっても、元気な高齢者がいる一方で、出かけるのが億劫、じっと家にいる、という高齢者もいる。こうした高齢者は地域から孤立しがちになる。さろんは高齢者を地域に誘い出し、地域とつながるきっかけづくりに役立っている。

特に定年退職した男性が積極的に地域に参加していくことはあまりない。70歳代、80歳代の男性が現役の頃は、麻雀全盛世代。たいていの人が麻雀経験がある。退職後、さろんの麻雀に顔を出すうちに顔見知りができて、地域に溶け込み、積極的に地域活動に参加する人もでてきている。

週に2日、ちゃんと外出する場所があること、その日にはきちんと身づくろいをする、毎日が日曜日ではなく、曜日の感覚も復活する。いつまでも住みなれた我が家で暮らし続けたいとの思いに寄り添う大切な場所と考えている。

「さろん風景」学校が休みの土曜日などは大人も子どももごちゃまぜ

「キッズサタデー」楽しくバルーンづくり

②子どもの安全な居場所として、そして世代を超えた交流の場として

さろんは子どもたちの楽しく安全に遊ぶ居場所となっている。時には、小さな子を連れたママたちがほっとできる場所ともなる。小学生と将棋をする高齢者、幼児相手にトランプ等楽しそうに遊ぶ高齢者、そしてその間、ママたちはコーヒーで一息つく。高齢者も笑顔になれるひと時になる。

また、5月の土曜日をキッズサタデーとして週ごとにバルーンづくり、お菓子づくり、綿菓子、射的などを実施。子どもたちが1日大喜びで過ごしている。

子どもの頃に地域の行事に参加したり、大人たちとかかわりながら成長した子どもは、地域に関心のある大人になるといわれる。地域のみんなで子どもを見守り育てていけば、地域のあしたの人材、あしたよりもっともっと先の地域の担い手になってくれる。

《イベント》

より多くの人に外出、ふれあいの場を提供し、世代を超えた事業目的で通常のさろんとは別の日に毎月イベントを実施している。これらは通常のさろんに出かけるきっかけづくりにもなっている。

①「さろんヨガ」

毎月1回実施。高齢者向けにとても簡単なメニューで椅子に腰かけてでも参加できる。ちょっとでも運動しようかというきっかけづくりに。

②「餅つき大会」「獅子舞」

日本の季節の風物誌だったこれらを経験したことのない住民が大多数を占めている。絵本やテレビでしか、杵と臼もお獅子も見たことないという。獅子頭は近くの神社所有のものを借りてきて、杵と臼は、ボランティア助成団体の助成金で購入をした。これらは、記憶に残しておきたい、日本の伝統行事で、次の世代に伝えていくのは大人たちの役割である。これらは年1回、毎年実施している。

「獅子舞」会の発足以来続いており、地域の恒例行事となっている

③「健康セミナー」

いつまでも元気で、そしていつまでも我が家に住み続けていたいという高齢者の思いに寄り添うため、健康寿命UPのための講座を

実施。一昨年は日赤看護大学の協力により「丈夫な骨で健康寿命を延ばす」セミナーを実施。昨年はコロナ禍で開催できなかったが、本年度は市の支援をいただき、いつまでもおいしく食事が食べられ、健康でいられるよう「嚥下講座」を実施した。

④講師に弁護士、税理士を迎えて、「相続の法律知識」、「相続税の知識」などの教養講座実施。

⑤ボッチャカフェ

体力が衰えてきても、少し体を使ってできる楽しい室内ゲームがしたいと思っている高齢者からの要望で月2回、ボッチャさろんを実施。運動会系の同好会をリタイヤした高い年代層の高齢者が楽しみにしている。本年度はあらたに「ボッチャ大会」を実施した。

⑥その他、高齢者が楽しく、気楽に出かけられるイベントとして「うたごえさろん」「麻雀大会」などを年に数回実施しており、楽しみにしている人が多い。

《挨拶運動》

かつて区民から青木の子は、「挨拶がない」との声が寄せられた。挨拶は全ての基本であり、まちづくり協議会でも自治区と協力して9年前から挨拶運動に取り組んできており、かなりの効果を感じている。

挨拶運動の発足にあたって、挨拶の大切さの意識の向上を盛り上げるため、挨拶の標語やポスターを区民・子どもたちから募集。その優秀作品をプリントした幟旗を作成。合わせて通学団の班長団員を対象にお楽しみ会を開催、子どもたちで挨拶の大切さの話し合いを行ってきた。今は年に4回、上記の幟を立て、立哨活動を中心に継続実施している。

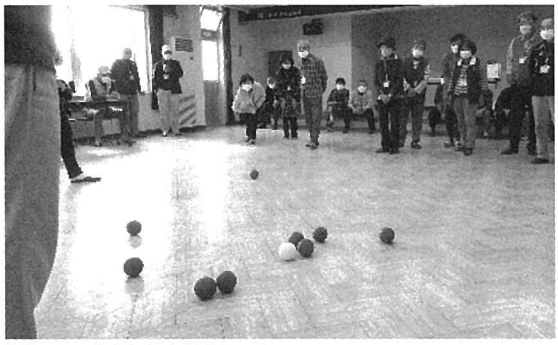
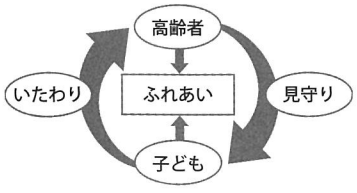
《もたらしたもの》

会が発足して9年。道で会った時など、高齢者と小学生が、自然に「こんにちは」の言葉が出てくるようになった。まちに笑顔があふれ明るくなった。たまに家に帰れなくなっている高齢者がいたりするが、周りにいる顔見知りがちゃんと声をかけてくれるようになった。顔見知りの輪は着実に広がっている。

もっともっと広げていけば、人と人のつながり豊かな青木台になっていくと思っている。

（青木台まちづくり協議会会長　谷口 公
連絡先：0565-45-9651）

「健康セミナー・骨折防止で健康寿命UP」試食タイム、カフェブレークなど笑顔になる企画


「ボッチャ大会」体力が衰えても・・・

「挨拶立哨」幟を立てて立哨。子どもたちの元気な声が